視覚障害のあるかたへのお手伝い(介助)

伴走どっとCom

視覚障害のあるかたへのお手伝いの基本的です。しかし相手のかたの希望が最優先で、それはそのかたの経験・年齢・見え方・体力などによって変わってきます。常に何をしてほしいのかを聞いてください。

街中で困っている人を見かけたら

「一緒に信号を渡りましょうか？」など(貴方に話しかけているんです！と言うことが判るように声かけして)

×：無言で白杖や腕を引っ張らないで

誘導の方法

白杖の反対側の半歩前に立ち、肘を掴んでもらいます。

「進みます」のように声をかけて進みます。

×：白杖を引っ張ったり、後ろから押すことは危険です。

重要：二人分の幅を占有していることを常に意識してください。

お会いした時には

晴眼(視覚障害の無い)のかたから名前を名乗ってください。

一時的に離れる時には

足元・周囲の安全を確認して、「＊＊のため離れます」などと断ってください。

(安全のため柱とか壁に触れてもらうことも良い方法です)

×：黙って離れないで。

〇：戻ったら「戻りました」と伝えます。

階段や段差（障害物）など

介助者がその一歩手前で止まり、「一段登ります」(＊＊段の登り階段です)のように伝え、介助者が先に進みます。

〇：必ず「登り(下り)」を伝えてください。

〇：段差を直角に進んでください。

始まりと終わりを伝えて

階段や坂道・カーブ・障害物などは、その始まりと終わりを伝えてください。

(終わりを伝えないと、何時までも緊張)

方向の案内

「右 45 度」のように角度で伝える方法と、「2 時」の方向のように時計の文字盤(クロックポジション)で伝える方法があります

×：指さして「あっち」は判りません

危険だけでなく安全も伝えて

「50m くらいの間は段差などありません」のように伝えると、その間だけでも安心して歩けます

食事などの案内

クロックポジションで伝えるとテーブル上(お皿の中）の位置などが判ります

(6 時にお箸、12 時にサラダのように伝えます)

ワサビ・ビニールの笹の葉なども困ります。

状況の説明

会場の様子、参加者数、出入り口の方向など、ある程度教えてください

例：20 畳ほどの部屋で、30 人ほど人がいます。

手を触れると判ります

品物の様子など手を触れると良く分かる場合があります。(必ず了解をもらってから)

椅子にかけてもらうには

椅子の背に手を触れ、テーブルにも手を触れさせてもらうと良く判ります

×：肩を押して座らせるのは怖いです

電車の乗降

ホームとの隙間が危険です。声かけ(隙間が広いです！など)とドア触ってもらうなども有効。

乗客の流れに乗らず、入り口付近で手すりにつかまってもらう場合もあります。

席が空いているのが判りにくいです。

空いていたら教えてもらえるとうれしいです。

〇：立っている時も手すりを掴むと安心します。

過度な介助はつつしんで

大声での案内、必要としていない介助など相手のかたが無能に思われる場合もあり、かえって嫌われることもあります。何を必要としているかを聞いてください。

2015-8-8(1.01)